



デニムの生地を使ってクマのキーホルダーも制作

ごみ山の女性たちを守るエコバッグ

フィリピンの首都マニラ郊外のパヤタス地区一。ここに、国内最大といわれるごみ処理場がある。住民たちにとって“ごみ山”は生活の糧。リサイクルできるモノを探し出しては換金し、日々の収入を得ている。しかし、安定した収入源でない故に、大半の人が貧困ライン以下の生活を送る。ごみ山から出る汚染物質による健康被害も深刻だ。

そんなパヤタス地区の住民たちと協働で、保健・医療サービスの改善、生計向上を目指して活動しているのが認定NPO法人アジア日本相互交流センター（ICAN）。女性を中心に住民組織を設立し、保健教育や栄養改善、裁縫技術などの指導を行う。

そんな彼らの活動を知り、ICANの活動拠点・名古屋に本社を構える株式会社SPPがアクションを起こした。フィリピンの自社工場でビニール製の横断幕を製作している同社。「横断幕の切れ端や不良品などをリサイクルして、女性たちと一緒に何か作れないだろうか」とICANに相談を持ち掛けた。

そこで生まれたのが“エコバッグ”。2児の母親ジョアナさんは、ミシンを使って、一つ一つ丁寧に縫い上げながら、「子どもを育てながら、収入を得られるのがうれしい」と話す。

“エコ”で環境にも優しいこのバッグを手にとると、フィリピンのお母さんたちのぬくもりが伝わってくるようだ。



エコバッグ作りに励む女性。硬質ビニール生地を縫えるよう、JICAの草の根技術協力事業を通じて電動ミシンが導入された

問：認定NPO法人アジア日本相互交流センター
TEL: 052-908-9314

★エコバッグとクマのキーホルダーをセットで1人の方にプレゼント! 詳細は38ページへ



マニラ

フィリピン